

西東京・生活者ネットワーク 活動レポート



TEL 042-453-4121
FAX / 042-410-0014

E-mail / nishitokyo@seikatsusha.net
https://nishitokyo.seikatsusha.me/

政治をもっと、身近なものに。

一人ひとりの生活の中から生まれた実感を
きちんと政治につなげ、社会全体を良いものにしていきたい。
これが私たち、生活者ネットワークの望みです。

No.113



発行日 / 2025年1月17日

発行責任者 / 広瀬 郁美

市議会議員 ● 後藤 ゆう子

市議会議員 ● かつう 涼子

〒202-0015 西東京市保谷町6-25-1-102

TEL 042-453-4121

戦争させない！ 平和を築く市民の輪を!!

ウクライナやガザの戦争が長期化し、さらに世界中で新たな紛争が広がっています。しかし戦争は、遠い国の出来事ではありません。ガザの惨状は、かつての西東京（旧保谷・田無）にもあったのです。

図書館の地域・行政資料コーナーには、80年前の市民の「生の声」が数多く残されています。

『田無の戦災誌』から

(1945年4月)12日はいいお天気でした。…その日もラジオをかかえて壕の入り口に立っていたところ、警戒警報が出てすぐ空襲警報が鳴ったのです。すると間もなく南西の空にB29の編隊が見えたかと思うと、それが黒い豆粒みたいなものを落とし、その豆粒はみるみる内不気味な地響か地鳴りと共に真黒なでっかい弾となり、駅に落ち始めたのです。(小峰順誉さん)

ちょうど江原薬局の辺まで来た時、ガンガンともすごい地響きが出て、私達は思わず細い路地へパッと伏せたのですよ。…どうやら命だけは助かったらしいことがわかると、すぐに立ち上がり走り出したんだ。…爆弾の破片やら、泥やらわけのわからないものがいっぱい。とにかくあたりには不気味な静けさが漂い、人っひとりアーともウーとも言わないんだから。(大野公三さん)

『八つ手の盆』から

「加藤さんから向うが全滅だーっ全滅だーっ」て言うんでね、あれっと思っ上がってみたら、ホントに駅が丸見えになっちゃったんですよ。…帯が飛んで、新井さんのけやきの木にひっかかって…(石原金子さん)

直撃を受けたお家のご親族の方と思いますが、小さな板の上に八つ手の葉を置き、土にまみれた肉片を拾い集め、その上に…その八つ手の葉が…その緑の濃さが眼に…今も鮮明に私の脳裏に焼き付いています。(野島美佐子さん)

* * *

昨年11月に開校150周年を迎えた保谷小学校の記念式典では、校長先生が式辞で戦時下の学校日誌を読み上げ、話題となりました。以下は、式典参加者からの聞き取りです。

『昭和19年の保谷小学校の日誌から』

11月0日：爆撃が激しくなり、比留間君を家まで送って帰ってきた浜田先生が、「小川の所まで来るとすごい爆

音がして、比留間君の家から火が出た」と。つい何分か前に元気で学校から帰った比留間君が、家に入るとすぐ爆撃を受け、親子とも爆死したのだ。

12月0日：昨日一緒に麦踏みをした下田さんが、昨夜の爆撃で亡くなったの知らせに泣いた。今日は次々とけが人が運ばれてきて、保谷小は学校でなく野戦病院の様だ。

12月0日：昼頃から爆発が起こり、すごい音とともに土煙が上がっている。学校は授業どころではない。児童と共に敵の爆撃機から逃げて生きていくのに精いっぱいだ。

* * *

校長先生は、「このような悲しい時代に生きた子どもがいて、今の日本の平和がある。だから君たちは平和を大切に人になってほしい」と語り掛けたとのこと。



▲田無駅北口「平和のリング」

戦争の実態を語り継ぐしくみを

戦争は一度起こると長期化します。戦争を起させない土壌を広げることが、何よりも必要です。

西東京市も市民との協働で様々な平和事業に取り組んでいますが、戦争体験者が少なくなる中、今後は語り部の育成が急がれます。体験者の話を聞く会を広めるほか、「平和推進に関する条例」を改正し、核廃絶の姿勢を明確に打ち出す「非核・平和推進条例」とするなど、市民の皆さまと共に、平和を築く不断の取り組みを進める提案をまいります。

出典：『田無の戦災誌』（田無市立中央図書館編、1982年）
『八つ手の盆』（平和観音保存会編、1994年）
先人たちの思いが込められた一冊、ぜひ図書館で探してみてください。

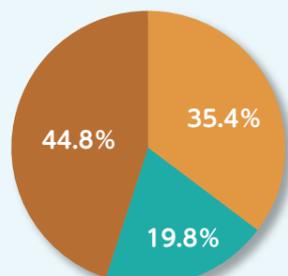


生活者ネットワーク「ひとこと提案」アンケートから

市民の声を市政に反映するため、毎年行っている「ひとこと提案」では、96名の方から、平和事業等についてご意見をいただきました。

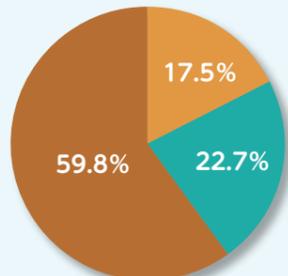
●あまり知られていない「西東京市平和の日」

戦時中、中島飛行機武蔵製作所に隣接する旧田無・保谷は、度重なる空襲で大きな被害を受けました。B29の1トン爆弾により、多数の犠牲者が出た4月12日は「西東京市平和の日」とされていますが、「知らない」との回答が35.4%、「よく知っている」との回答は約2割にとどまりました。



●市民参加でつくられた「非核・平和都市宣言」

西東京市では、市政誕生100周年の2002年1月21日に「非核・平和都市宣言」を行いました。宣言都市であることも宣言文も知らない方が17.5%でした。「私たちは生きています。」で始まる宣言文は市民参加でつくられ、田無駅北口「平和のリング」付近のほか、田無庁舎にも掲示されています。



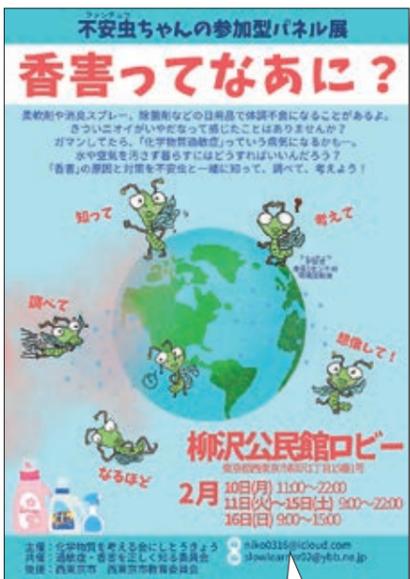
- ・ウクライナやパレスチナの惨状、被災者支援をしている方たちの講演会
- ・学校などで戦争体験者の話を聞く会。できれば親も一緒に
- ・「非核・平和都市宣言」を冊子化し、広く子どもや市民に配布

戦後80年体験記等を市としてまとめるなど、平和事業に関するさまざまな提案をいただきました。

イスラエル元兵士が語る非戦論 足元から平和を守り育む取り組みを届けよう

日時：1月19日(日) 10時～11時45分
場所：J・COMコル田無(多目的ホール)
講師：ダニー・ネフセライさん(イスラエル生まれ。徴兵制により3年間イスラエル軍に所属、退役後来日。家具作家の傍ら講演活動を行っている。著書『どうして戦争しなきゃいけないの?』ほか)
主催：西東京・生活クラブ運動グループ地域協議会
電話：042-1452-9797(生活クラブコールセンター)

参加費：500円



2月10日(月)～16日(日)
柳沢公民館ロビーにて

柔軟剤等の強い香りで体調不良になる「香害」。市内初のパネル展が、市民団体主催で開催されます。

選挙はカンパとボランティアで行います。

議員は交代制。議員を職業化せず、誰もが議員になることで特権化しません。

議員報酬は市民の活動資金として使い、お金の流れは公開します。

後藤ゆう子とかとう涼子の

議会報告



市民の声をどう聴くのか 問われる行政の「本気度」

子どもが意見を言えない！ 公園の遊具更新

保谷柳沢児童館に隣接するむくのき公園から、すべり台のある木製複合遊具が撤去されたのは6年前。ターザンロープも壊れ、今は立入禁止のテープが貼られています。

その公園でひっそりと、遊具のリニューアルに向けた「子どもへのアンケート調査」が行われていました。黒と黄のテープでぐるぐる巻きにされた遊具に、「A4サイズの掲示物が1枚、無造作に貼られています。」「遊具更新に伴う意見聴取」と書か

れた説明書きは漢字だらけで、ルビさえ振られていません。しかも「不朽劣化」「安全領域」「現行基準」など、これが子どもに対するアンケート？と目を疑うような行政用語だらけ。「期間中に「ご意見がない場合は、小規模複合遊具へ更新を致しますので、「ご了承ください」との断り書きに、行政のアリバイづくりと感じざるを得ませんでした。

地域の合意は後回し 田無三中エリアの 公共施設再編

行政による意見聴取の本気度に疑問を感じる事例は、他にも

あります。田無三中の建て替えにあたり、エリア内の公共施設を再編・複合化する計画が進められています。昨春から検討に着手したものの、地域住民に情報が提供されたのは12月も半ばになってから。けやき保育園と西原町地域包括支援センターを中学校に複合化するほか、西原北児童館と田無町市民集会所・芝久保第二市民集会所も再編統合するという、かなり大がかりな内容です。

「まだ決まったわけではない。市民の声を聞き丁寧に進める」とは言うものの、「いつまでに決めるのか」と質問した市民への回答は「今年度中」とのこと。行政内部の調整に時間をかけて、利用者への情報提供も

地域の合意形成も後回し。順序が逆ではないでしょうか。公園や学校など、コミュニティの形成に関わる施設のあり方は、十分な時間をかけて市民とともに協議すべきです。市議会でも問題にしたことで、むくのき公園の掲示板は改良され、児童館での子ども向け説明会が開催されました。一歩前進とはいえ、市民参加は道半ばです。

かとう涼子



ウォーカーカブルな まちづくりを目指して

もっとベンチが欲しい

「ウォーカーカブル」という言葉を聞いたことはありませんか。直訳すれば、歩きやすいという意味です。現在ウォーカーカブルなまちづくりが、全国で進められています。

車から人を中心にした道路空間へ転換することで、人々が外に出かけたくなるまちになり、様々な効果をもたらします。例えば、歩くことが健康増進になり、車が減ることで大気汚染や交通事故の減少、外出することで孤立化防止やコミュニティの形成、そしてまちの賑わいにもつながります。

歩きやすいまちづくりを考える中で、重要なものとしてベンチがあげられます。高齢者や障がい者、そして介護者から、ベンチ設置の要望はこの10年の間に非常に増加しています。一方で、歩道にベンチが新設された例はほとんどない状況です。

これまでに国が行った「高齢者が無理なく休まず歩ける距離」や「自宅から駅やバス停までの許容距離」の調査結果から、100メートルから300メートルくらいの間隔で腰を下ろせるベンチが必要なのではないかと考えます。

先進市では

三鷹市では、「誰もが安心して歩ける道」を目的に、ベンチのあるみちづくりを2006年から開始し、現在約340基が整備済みだそうです。設置費用の一部を寄付金で募り、寄付者の名前等を刻んだプレートをベンチに設置したり、用地協力者には固定資産税の非課税または減免措置を行う取り組みも、「ほっとベンチ事業」という名称で注目されています。

後藤ゆう子



議会 TOPICS

看過できない！ 学校施設の老朽化と安全管理

保谷小学校の高架水槽が破損し、急きょ取替工事が行われることに。耐用年数25年のところ既に46年が経過しており、同様の小中学校が市内に11校もあるとのこと。工期が新学期にまたがるため、仮設トイレ40基を発注するとの説明だが、計画的に設備更新を行っていたなら余計な経費もかからず、子どもたちへの影響も防げたはずだ。

この間、学校給食への異物混入など、教育現場であってはならない事案が相次いでいる。老朽化した設備を使い続け、不具合が起きてから対処するやり方を抜本的に変えていくべきと訴え、生活者ネットのみが補正予算に反対した。

PFAS対策を求める市民の陳情、2件可決

有害性のあるPFAS（有機フッ素化合物）の汚染度が高いと指摘される多摩地区では、独自に水質調査や浄化対策を始めた自治体もある。生活者ネットも繰り返し議会で提案してきたものの、西東京市は国や東京都の様子を注視する姿勢を貫いてきた。

12月議会では、井戸水の水質検査や浄水対策、希望者への血液検査を求める市民の陳情が2件可決。12月24日には環境省もPFASの規制を強化する方針を示した。一刻も早く、市も検査と対策を進めるべきだ。

英語スピーキングテストは都立高校入試にそぐわない

東京都が採用し、民間事業者が行う英語スピーキングテスト（EST-J）が、昨年11月に実施されました。3年前の導入時から、テストに使用する機器の不具合が問題になっていますが、今回も市内中学校の生徒が再試験をしなくてはならない事案が発生しています。度重なる機器の不具合にとまらず、採点内容が公表されない、受験しなかつた場合は他の受験者の点数を参考に点数が決まる、6年間で200億円を超える莫大な費用など、入試に使用するにはふさわしくありません。引き続き中止を求めます。



▲障がい者（児）とスポーツを楽しむつどいに参加



▲学校複合化の先進地、志木小学校を視察